

授業科目名： 助産学概論 Introduction of Midwifery	履修年次： 選択：看3年 編3年	単位数： 1 単位 1 5 時間 コード：NSP223	担当教員名：石井邦子[助産師] (研究室：教育棟 B308) 川城由紀子[助産師]， 北川良子[助産師]
	実務経験のある教員による授業科目		
	〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム Ⅲ実践に必要な知識 Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善		
〔授業の到達目標及びテーマ〕 女性の生涯にわたる健康およびプロダクティブヘルスに関わる専門職としての助産師の役割と責務を理解し、洞察することができる。 1. 助産師活動の場および助産師が関与する健康問題と看護の特徴を説明できる。 2. 助産師の専門性、役割と責務について、法律や社会情勢、医療の現状を踏まえて説明できる。			
〔授業の概要〕 助産師の活動に関連する女性の健康とリプロダクティブヘルス、地域または医療施設における助産師活動の実際、助産師活動に関連する法規、施策、社会制度等について学修する。(本授業はオムニバス方式により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)			
キーワード：助産、助産師、女性の健康			
〔授業計画〕			
回 数	テ ー マ	内 容	担当
第1回 (4/10)	助産師の役割と責務	助産師の役割と責務の変遷，関連法規、施策、社会制度	石井邦子
第2回 (4/17)	助産師活動の実際	周産期医療提供システムと助産師	北川良子
第3回 (4/24)	助産師活動の実際	不妊カップルに対する支援	東邦大学医療センター佐倉病院 看護師長 勝又由美
第4回 (5/1)	助産師活動の実際	パートナー間の暴力に関する支援	秀明大学 教授 三隅順子
第5回 (5/8)	助産師活動の実際	女性のライフサイクルと健康相談	川城由紀子
第6回 (5/15)	助産師活動の実際	地域における助産師活動	訪問看護ステーション co-co-to 所長 山岸由紀子
第7回 (5/22)	助産師活動の実際	医療施設における助産師活動 1	くぼのやウィメンズホスピタル 病棟看護師長 平島麻衣
第8回 (5/29)	助産師活動の実際	医療施設における助産師活動 2	川城由紀子 (特別講師) (特別講師)
履修条件		特になし	
予習・復習		予習は、事前課題で提示する。 復習は配布資料、ノートを見直し、事後課題を作成すること。	
テキスト		特になし	
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する	
学生に対する評価		事後課題(80%)，学習態度(20%)	

授業 科目名	助産診断・技術学 I Method I in Midwifery	履修年次: 選択: 看 3 年 編 3 年	単位数: 1 単位 1 5 時間 コード: NSP224	担当教員名: 石井邦子[助産師] (研究室: 教育棟 B308), 川城由紀子[助産師], 北川良子[助産師], 川村紀子[助産師]
〔DP〕 III実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践 I 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期から育児期における母子とその家族のリプロダクティブヘルスを支援するための基礎的知識と助産技術を修得する。 1. 助産診断・助産技術の特徴と助産過程展開方法を理解する。 2. 周産期及び育児期における助産診断に必要な知識を修得し、助産診断の方法を説明できる。 3. 周産期及び育児期における助産技術の活用方法を説明できる。				
〔授業の概要〕 周産期から育児期にある母子と家族のリプロダクティブヘルスを支援するための基礎的知識と助産技術を修得する。周産期から育児期にある母子と家族のリプロダクティブヘルスに関する助産診断に必要な基礎的知識と診断技術、リスクの程度や正常経過逸脱の程度に応じた助産ケアを提供するための助産技術について学修する。(本授業はオムニバス方式により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 周産期・育児期、助産診断、助産技術、助産ケア				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	5/29 45 分	妊娠期の助産診断・技術	妊娠初期における助産診断・助産ケア	石井邦子
第 2 回	6/5	妊娠期の助産診断・技術	妊娠中期・後期における助産診断・助産ケア	石井邦子
第 3 回	6/12	妊娠期の助産診断・技術	妊娠中期・後期の主な異常と助産診断・助産ケア	石井邦子
第 4 回	6/19	分娩期の助産診断・技術	分娩第 1 期における助産診断・助産ケア	北川良子
第 5 回	6/26	分娩期の助産診断・技術	分娩第 2 ～ 4 期における助産診断・助産ケア	北川良子
第 6 回	7/3	新生児期～乳幼児期の助産診断・技術	新生児期～乳幼児期における助産診断と助産ケア	川村紀子
第 7 回	7/10	産褥～育児期の助産診断・技術	産褥期～育児期における助産診断と助産ケア	川城由紀子
第 8 回	7/17	まとめ	まとめ・総括	石井邦子
履修条件	助産学概論を履修済であることが望ましい			
予習・復習	予習は事前課題で提示する。 復習は配布資料とノートを見直し、事後課題を作成すること。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	事後課題 (30%), 定期試験 (50%), 学習態度 (20%)			

授業 科目名	助産診断・技術学Ⅱ Method Ⅱ in Midwifery	履修年次: 選択: 看4年	単位数: 2単位60時間 コード: NSP311	担当教員名: 石井邦子[助産師] (研究室: 教育棟B308) 川城由紀子[助産師], 北川良子 [助産師], 川村紀子[助産師], 竹中奈々[助産師]
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基本的知識の活用方法と基本的技術を修得する。 1. 周産期にある母子と家族に対する助産ケア展開における助産の専門的知識の活用方法を理解する。 2. 周産期にある母子と家族の助産診断・助産計画立案方法を説明できる。 3. 分娩介助と出生直後新生児ケアの基本を理解し、原理原則に基づき実施できる。				
〔授業の概要〕 周産期にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基本的知識の活用方法と基本的技術を修得する。周産期にある母子と家族の母子の助産診断と助産計画の立案を行い、基本的知識の活用方法と助産過程展開方法について学修する。母子の安全を守るための原理原則に基づいた分娩介助と出生直後新生児ケアについて学修する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 周産期、継続ケア、助産診断、助産計画、分娩介助技術、出生直後新生児ケア				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1-2回	4/9	妊娠期の助産診断・技術1	妊娠期における基本的知識と活用方法 (発表・討議)	石井, 竹中
第3-4回	4/10	分娩期の助産診断・技術1	分娩期における基本的知識と活用方法 (発表・討議)	北川, 竹中
第5-8回	4/10 4/11	周産期助産ケアの展開 (長期目標・妊娠期)	妊娠期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	石井, 竹中
第9-12回	4/11 4/16	周産期助産ケアの展開 (分娩予測・分娩開始)	分娩期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	北川, 竹中
第13-14回	4/17	産褥新生児期の助産診断・ 技術1	産褥新生児期における基本的知識と活用方法 (発表・討議)	川城, 川村
第15-18回	4/17 4/18	周産期助産ケアの展開 (分娩終了時/退院時)	産褥新生児期の助産診断・助産計画 事例展開の実際, 事例演習 (発表・討議)	川城, 川村
第19-20回	4/18 4/23	周産期助産ケアの展開 (継続支援)	継続ケアと助産診断・助産技術	石井邦子
第21-22回	4/24	分娩介助技術	分娩介助法理論, 基本的分娩介助技術	北川, 竹中
第23-24回	4/24	出生直後新生児ケア技術	出生直後新生児ケアの原則, 出生直後 新生児ケア技術	川村, 竹中
第25-26回	4/25	分娩介助・出生直後新生児 ケア技術1	基本的技術 (演習)	竹中, 北川, 川村
第27-30回	6/20	分娩介助・出生直後新生児 ケア技術2	基本的助産技術 (評価)	北川, 川村, 竹中 石井, 川城
履修条件	助産課程履修学生			
予習・復習	予習はテキストを熟読のこと。 復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。			
テキスト	助産師基礎教育テキスト1・2・3・5・7 (看護協会出版会)			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(30%), 技術試験(30%), 提出物(20%), 学習態度(20%)			

授業 科目名	助産診断・技術学Ⅲ Method Ⅲin Midwifery	履修年次: 選択: 看 4 年	単位数: 3 単位 9 0 時間	担当教員名: 石井邦子[助産 師](研究室: 教育棟 B308) 北川良子[助産師], 川城由紀子 [助産師], 川村紀子[助産師], 竹中奈々[助産師]
		コード: NSP312		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 医療施設における助産ケア実践のための基礎的能力及び安全安楽な分娩期ケアを提供するための基礎的能力を修得する。 1. 医療施設における助産ケアの実際を知り、助産ケア実践の基盤となる知識と技術を理解する。 2. 分娩期にある母子と家族の助産診断・助産計画立案方法を説明できる。 3. 分娩期にある母子に安全安楽な助産ケアを提供するための基本的ケアが実施できる。				
〔授業の概要〕 安全・安楽な分娩期ケアを提供するための基礎的能力を修得する。実習施設における助産ケアの実際を素材とし、各施設における助産ケアの特徴や受け持ち事例に対する助産過程展開方法について学修する。模擬事例を用いて、分娩期の母子に対する安全安楽な出産のための助産診断、助産計画立案、分娩進行に即した基本的ケアについて学修する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 分娩期、産婦ケア、助産診断、助産計画、分娩介助技術				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1-2 回	6/17	医療施設における助産ケア 1	医療施設における周産期ケアの実際 (実習オリエンテーション)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中
第 3-9 回	6/17 6/23 6/24	分娩期における助産過程展開 1	分娩期の助産診断・計画立案・評価 事例展開の実際, 模擬事例演習 (発表・討議)	北川, 川村, 竹中
第 10-11 回	6/25	助産ケアの基本技術 1	助産ケア提供の基本技術 (演習)	竹中, 北川, 川村
第 12-13 回	7/22	医療施設における助産ケア 2	医療施設における助産ケアの実際 (発表・討議)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中
第 14-16 回	7/22 7/23	助産ケアの基本技術 2	助産ケア提供の基本技術 (演習)	竹中, 北川, 川村
第 17-31 回		医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際 (継続ケア・臨地での実践を含む)	石井, 川村 北川, 川城, 竹中
第 32-33 回	9/2	医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際 (産婦ケア) (発表・討議)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中
第 34 回	9/2	医療施設における助産ケア 3	医療施設における助産ケア実践 (実習オリエンテーション)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中
第 35-36 回	9/3	医療施設における助産ケアの実際	医療施設における助産ケアの実際 (継続ケア) (発表・討議)	石井, 川村 北川, 川城, 竹中
第 37-40 回	9/4	分娩期における助産過程展開 2	分娩期の助産診断・助産ケア (演習)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中
第 41-45 回	9/5	分娩期における助産過程展開 3	分娩期の助産診断・助産ケア (評価)	北川, 川村 石井, 川城, 竹中 (授業協力者)
履修条件		助産課程履修学生		
予習・復習		予習はテキストを熟読のこと。復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。		
テキスト		助産師基礎教育テキスト 1－7 (看護協会出版会)		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		発表・討議 (30%), 提出物(20%), 技術試験(30%), 学習態度(20%)		

授業 科目名	助産診断・技術学Ⅳ Methods Ⅳ in Midwifery	履修年次: 選択：看4年	単位数: 2単位60時間	担当教員名：石井邦子[助産師] (研究室：教育棟B308), 川城由紀子[助産師], 竹中 奈々[助産師], 川村紀子[助 産師], 北川良子[助産師]
		コード: NSP313		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 周産期における継続ケア及びハイリスク状態にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基礎的知識と基本的技術を修得する。助産師の役割と責務についての理解を深め、自己のキャリアプランを作成する。				
1. 正常経過逸脱の予防と早期発見を含む、継続ケアに必要な基本的知識と技術を修得する。				
2. 正常経過逸脱に対応する助産ケアの理解を深め、助産ケアに必要な基礎的能力を修得する。				
3. 周産期ケアにおける助産師の役割と責務について理解を深める。				
4. 自己の学習状況を客観的に評価し、助産師として成長し続けるためのキャリアプランを作成する。				
〔授業の概要〕 周産期における継続ケア及びハイリスク状態にある母子と家族に対する助産ケアを実践するための基礎的知識と基本的技術を修得する。助産師の役割と責務についての理解を深め、自己のキャリアプランを作成する。(本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。)				
キーワード：ハイリスク分娩、正常逸脱時ケア、助産師の役割責務、健康相談				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1-5回	9/3 9/9	継続ケアと助産1 (健康相談)	継続ケアにおける健康相談 (目標設定)	川城、竹中
第6-7回	9/9		継続事例に対する健康相談 (計画立案)	川城、竹中
第8-10回	9/10		継続事例に対する健康相談 (実施・評価)	川城、竹中 川村、石井、北川
第11-13回	9/11		継続事例に対する健康相談 (まとめ)	川城、竹中
第14-16回	10/8	継続ケアと助産2	継続事例における助産ケア (発表・討議)	石井、川村 北川、川城、竹中
第17-18回	10/9	医療施設における助産ケア	医療施設における助産ケア (相互評価)	北川、石井、川村 川城、竹中
第19-20回	11/5	継続ケアと助産3	継続事例における助産ケア (発表・討議)	石井、川村 北川、川城、竹中
第21-23回	11/5	正常経過逸脱時の助産診断・技術1	正常経過逸脱時の助産診断・技術 (急速遂娩・会陰縫合)	北川、竹中 (特別講師)
第24-26回	11/6	正常経過逸脱時の助産診断・技術2	新生児蘇生 (NCPR)	竹中、川村 (特別講師)
第27-29回	11/7	医療施設における助産ケアの実際	ハイリスク状態における助産ケア (発表・討議)	北川、川村 石井、川城、竹中 (授業協力者)
第30回	11/10	助産師の役割と責務 (まとめ)	自己評価とキャリアビジョン作成	石井、北川、川村 川城、竹中
履修条件		助産課程履修学生		
予習・復習		予習はテキストを熟読のこと。復習はテキスト、配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。		
テキスト		助産師基礎教育テキスト1－7 (看護協会出版会) 新生児蘇生法テキスト (MEDICALVIEW)		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		発表・討議 (30%), 提出物(20%), 技術演習(30%), 学習態度(20%)		

授業科目名	助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験） Midwifery Practicum Ⅰ Introduction for Midwifery Practice	履修年次： 選択：看３年	単位数： 1 単位 45 時間 コード：NSP314	担当教員名：科目責任者 北川 良子(教育棟B314) 石井 邦子，川城 由紀子， 川村 紀子，竹中 奈々 〔全員 助産師〕
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識，Ⅳ健康づくりの実践，Ⅱコミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 実習目的：施設における周産期ケアの実際を学ぶ。正常経過をたどる分娩期にある母子の経過を理解し，安全・安楽な出産を目指した助産ケアの方法の実際を学ぶ。 実習目標：1)母子とその家族に対するヒューマンケアの基本に則った看護実践とはどのようなものかを考えることができる。2)-1 分娩期の母子の身体的・心理社会的変化の実際を，既習知識と照合して継続的に整理できる。2)-2 母子とその家族の個別性や発達段階に即した助産目標の設定と助産計画の立案について考えることができる。3)-1 安全・安楽な出産を支援するための産婦ケアの実際を，根拠に基づいて意味づけ，整理できる。3)-2 母子とその家族に対する科学的根拠に基づいたケア実践とはどのようなものかを考えることができる。3)-3 母子とその家族との援助的人間関係の形成とはどのようなものかを考えることができる。4)周産期にある母子のケア見学と産婦ケアの見学を通して，周産期の継続ケアおよび産婦ケアにおける自己の課題を見出し，具体的な学習計画を立案することができる。				
〔授業の概要〕 ・分娩進行中の産婦に付き添い，分娩期の産婦と胎児の経過の把握及び安全・安楽な出産のための助産ケアの実際を見学することを通して学ぶ。 ・周産期にある母子とその家族に対するケアを見学または実施する。 ・周産期医療機関における助産師の実務経験もふまえ，実習時の教育・支援を行う。				
〔授業計画〕 キーワード：助産，周産期ケア，正常分娩のケア，臨地実習				
回数	テーマ	内 容		担当
第1～2回	周産期の母子とその家族のケアの実際	実習施設のオリエンテーションを受け，周産期にある母子とその家族に対するケアを見学または実施する。施設における分娩介助のオリエンテーションを受ける。		北川 良子 石井 邦子 川城由紀子 川村 紀子 竹中 奈々
第3～4回	分娩進行中の産婦の理解と安全・安楽な産婦ケアの実際	分娩進行中の産婦に付き添い，担当助産師のケアの実際を見学する。分娩進行状況にともなう産婦と胎児の身体的・心理社会的変化，安全・安楽な出産を支援するためのケアおよび産婦に対する効果的なコミュニケーションについて，課題にそってレポートにまとめる。		
第5回	カンファレンス	見学を通して得た学びと今後の課題を整理する		
履修条件		助産課程履修学生		
予習・復習		予習は育成期看護概論，母性看護学方法論ⅠⅡ，母性看護学実習，助産学概論，助産診断技術学Ⅰで学んだ内容を確実に復習しておくこと。復習は実習記録を見直すこと。		
テキスト		助産師基礎教育テキスト4・5・6・7（日本看護協会出版会）		
参考書・参考資料等		育成期看護概論，母性看護学方法Ⅰ・Ⅱ，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰで使用したもの，および必要に応じて適宜紹介する		
学生に対する評価		実習目標の到達状況 80%，学習態度 20%		

授業 科目名	助産学実習Ⅱ（継続支援） Midwifery Practicum 2 (Practice in Perinatal Period)	履修年次： 選択：看4年	単位数： 2単位 90時間	担当教員名：石井邦子[助産 師] (研究室：教育棟 B308) 川村紀子[助産師]，北川良子 [助産師]，川城由紀子[助産 師]，竹中奈々[助産師]
			コード：NSP315	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅰ倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
実習目的：妊娠後期から産後1か月の時期にある母子および家族に対する継続看護の実践能力を養う。 実習目標：1) 母子とその家族に対してヒューマンケアの基本に則った看護実践を行うことができる。2) 周産期の母子とその家族の助産診断を的確に行い、母子とその家族の個性や発達段階に即した助産目標の設定と継続看護（助産）計画の立案ができる。3) 周産期にある母子とその家族に対して、助産計画に基づき、母子とその家族に対する科学的根拠に基づいたケアを実践することができる。4) 周産期医療におけるチームの連携・協働の方法を明確にすることができる。5) 継続看護の実践を通して、常に研鑽する力を身につけ、助産師としてのアイデンティティを形成することができる。				
〔授業の概要〕 周産期における継続支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥期にある母子および家族に対する継続看護を実践する助産ケアの実践能力を習得する。実習施設の産科外来、産科病棟において、妊娠後期から産後1か月までの母子を受け持つ。妊娠・分娩・産褥・新生児各期の経過に即した助産診断・助産計画を立案し助産ケアを実践する。妊娠期には妊婦健康診査および健康相談を行う。分娩期には、安全・安楽で満足できる出産のための産婦ケアを実践する。産褥・新生児期には入院中から産後1か月の継続的な健康支援、育児支援を実践する。（本授業は共同担当により行い、担当教員全員が助産師実務経験に基づき担当する。）				
キーワード：助産、周産期、継続ケア、臨地実習				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1-4回	妊娠期の継続看護	妊娠後期の妊婦健康診査における助産ケア (妊婦健康診査・健康教育の見学・実施)		石井 川村 北川 川城 竹中
第5-6回	分娩期の継続看護	分娩進行中の助産ケア		
第7-10回	産褥早期・新生児早期の継続看護	産後入院中の助産ケア (健康診査，健康支援，育児支援の実施)		
第11-14回	地域における産褥・新生児期の継続看護	退院から産後1か月までの助産ケア (電話訪問，家庭訪問，二週間健診， 産後1か月健診，生後1か月健診の実施)		
第15回	まとめ	周産期における継続看護のあり方と自己の課題(カンファレンス)		
履修条件		助産課程履修学生，助産学実習Ⅰの単位を修得済みであり、かつ、助産診断技術学Ⅱの単位を修得見込みであること		
予習・復習		予習は助産学概論、助産・診断技術学Ⅰ～Ⅳの配布資料、ノート、提出物の見直しをすること。復習は、提出物の見直しをすること。		
テキスト		助産師基礎教育テキスト1－7（看護協会出版会）		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		実習目標の到達状況 80%、学習態度 20%		

授 業 科 目 名	助産学実習Ⅲ（産婦ケア） Midwifery Practicum 3(Practice in Labor and delivery period)	履修年次： 選択：看4年	単位数： 3単位 135時間	担当教員名： 科目責任者 北川 良子 (研究室：教育棟B314) 石井 邦子，川城 由紀子 川村 紀子，竹中 奈々 [全員助産師]
			コード：NSP316	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識，Ⅳ健康づくりの実践，Ⅱコミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
実習目的：正常経過をたどる分娩期の母子に対する安全・安楽な出産のための助産ケア実践能力を体得する。 実習目標：1) 母子とその家族に対してヒューマンケアの基本に則った看護実践を行うことができる。2) 分娩期の助産診断を的確に行い，母子とその家族の個別性や発達段階に即した助産目標の設定と助産計画の立案ができる。3) 分娩期にある母子とその家族に対して，助産計画に基づき，母子とその家族に対する科学的根拠に基づいたケアを実践することができる。4) 分娩期の産婦に対するチームの連携・協働の方法を明確にすることができる。5) 分娩期の産婦ケア実践を通して，常に研鑽する能力を身につけ，助産師としてのアイデンティティを形成することができる。				
〔授業の概要〕				
・実習施設の産科病棟において，正常経過をたどる分娩期の母子と予定帝王切開術を受ける母子を受け持ち，経過に即した助産診断・助産計画を立案のもと，安全・安楽で満足感のある出産のための助産ケアを実践する。 ・周産期医療機関における助産師の実務経験もふまえ，実習時の教育・支援を行う。				
〔授業計画〕 キーワード：助産，分娩期，産婦ケア，臨地実習				
回 数	テ ー マ	内 容		担 当
第1～4回	分娩期の 産婦ケア 1～2 例目	2 例の産婦を受け持ち，指導者の全面的な指導・助言のもと，原理原則に従い，基本的な産婦ケア（分娩介助を含む）を行う。産婦ケアを振り返りながら分娩期の助産診断・助産計画を立案し，評価を行う。		北川 良子 石井 邦子 川城 由紀子 川村 紀子 竹中 奈々
第5～10回	分娩期の 産婦ケア 3～6 例目	4 例の産婦を受け持ち，分娩経過に即した助産診断を行い，安全で安楽な分娩を目指した助産計画を立案する。助産計画に基づき，指導者の指導・助言のもと，原理原則に従い，安全・安楽な分娩を目指した産婦ケア（分娩介助を含む）を行う。		
第11～14回	分娩期の 産婦ケア 7～10 例目	4 例の産婦を受持ち，産婦の分娩経過に即して包括的に助産診断を行い，母子とその家族が安全・安楽で満足感のある分娩となることを目指した助産計画を立案する。助産計画に基づき，指導者の助言・見守りのもと，安全・安楽で満足感のある分娩を目指した産婦ケア（分娩介助を含む）を行う。		
第15回	カンファレンス	実習目標における到達状況，分娩介助を含む産婦ケアにおける自己の学びと課題についてまとめる		
履修条件		助産課程履修学生，助産学実習Ⅰは既習，助産診断技術学Ⅱは修得見込み		
予習・復習		予習は育成期看護概論，母性看護学方法論ⅠⅡ，助産学概論，助産診断技術学ⅠⅡⅢで学んだ既修得知識を十分に復習しておくこと。復習は実習記録を見直し，振り返り学習を行うこと。		
テキスト		助産師基礎教育テキスト4・5・6・7（日本看護協会出版会）		
参考書・参考資料等		NCPR 新生児蘇生法テキスト第3版（メジカルビュー社）		
学生に対する評価		実習目標の到達状況 80%，学習態度 20%		

授業科目名: 看護管理論 (Nursing Administration)	必修:看4年 編入4年	1単位:15時間	担当:西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】	
		NSA301		
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 看護管理の概念と看護を組織的に提供するしくみを説明できる				
2. 看護サービスマネジメントについて理解できる				
3. 看護を取り巻く諸制度について理解できる				
4. 看護サービスマネジメントに必要なスキルについて理解できる				
〔授業の概要〕				
看護管理とは、「患者にケア、治療、そして安楽を与えるための看護スタッフメンバーによる仕事の過程」(Gillies,D,A)である。日本看護協会では、「臨床における看護管理とは、患者や家族に看護ケア、治療への助力、安楽を与えるために行う仕事の過程である。看護管理者は、最良の看護を患者や家族に提供するために、計画し、組織化し、指示し、統制を行う」としている。本授業は、看護管理の概念と質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するためのしくみと機能、看護管理に必要な基本的知識、臨床における看護マネジメントの実際について学習し、看護管理実習につなげる。				
看護管理者としての実務経験に基づき、2名の担当教員が講義を行う。				
〔授業計画〕キーワード：看護管理、看護ケアマネジメント、看護サービスマネジメント、看護の質評価、人的資源管理				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/14・Ⅲ	看護管理の概念・基本的理論	看護管理の概念と看護管理の歴史的変遷 看護のマネジメントとは	西村 宣子
第2回	4/14・Ⅳ	看護サービスのマネジメント	理念の形成と浸透 組織化 人事労務管理 物的資源管理	富樫 恵美子
第3回	4/21・Ⅲ	看護ケアのマネジメント	看護管理の基本、日常業務のマネジメント 看護サービスとプロフェッション	西村 宣子
第4回	4/21・Ⅳ	安全なケアの提供と質保証	時間管理と業務の進め方 安全管理とリスクマネジメント 感染管理 情報管理 看護の質評価、	西村 宣子
第5回	4/22・Ⅲ	看護サービスにおける 人的資源管理	キャリア発達とキャリア開発、人材育成、継 続教育、配置と採用、ワークライフバランス リーダーシップとマネジメント	西村 宣子
第6回	4/22・Ⅳ	看護を取り巻く諸制度	法律と医療制度、医療保険制度と診療報酬 看護の経済的評価、看護政策、	富樫 恵美子
第7回	4/28・Ⅲ	看護サービスマネジメントに 必要なスキル	リーダーシップ・コーチング、ストレスマネ ジメント、タイムマネジメント、交渉術	西村 宣子
第8回	4/28・Ⅳ	まとめ	看護実践のための倫理と責任 -倫理的なリーダーとは-	西村 宣子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習:テキストの指定された部分を熟読する。復習:授業資料を見直す。		
テキスト		上泉和子他著:〔系統看護学講座 統合分野〕看護管理 第11版(医学書院)		
参考書・ 参考資料等		手島 恵著:「看護管理学(改訂第2版)」南江堂 原玲子著:学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門第2版(日本看護協会出版会)		
学生に対する評価		学習態度(20%)、試験(80%)、により総合的に評価する。		

授業 科目 名	災害看護学 (Disaster Nursing)	履修年次:必修:	単位数:1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 細谷紀子 [保健師] (研究室:図書館棟 4)、佐藤紀子[保健師]
		看3年、編3年	コード: NSA302	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅱコミュニケーション能力,Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解する。 ・災害発生時及び災害発生に備えた平常時における看護職の役割および活動方法を理解する。				
〔授業の概要〕 災害が人々の健康生活に及ぼす影響、および災害発生時・平常時における看護職の役割や活動方法について実践事例を通して教授する。なお、本講義での「災害」とは自然災害のみではなく、汚染事故等の人為災害やパンデミックにより不特定多数の住民の健康および生活に影響を及ぼす事態とする。本授業は保健師経験のある担当教員2名と救急看護および災害看護の実務者の特別講義により構成する。				
キーワード: 災害看護、災害サイクル、要配慮者・避難行動要支援者、健康危機管理				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/10	災害看護とは何か	・災害の定義・種類別の健康被害の特徴 ・災害関連死・防ぎ得た死 ・災害看護の定義・役割と必要な能力	細谷紀子
第2回	4/17	災害サイクルに応じた看護活動・我が国の災害対策	・災害サイクルに応じた健康ニーズと看護活動 ・災害に関わる法律・制度と国・地方自治体の役割 ・災害対策に係る組織・社会資源	細谷紀子
第3回	4/24	要配慮者の対象特性に応じた看護活動・健康危機管理	・要配慮者の対象特性に応じた看護活動 ・健康危機管理と保健所の役割	細谷紀子
第4回	5/1	急性期に必要な看護活動	・トリアージの基本的知識と方法、応急処置・搬送 ・病院における災害対策・初動体制の立ち上げ (特別講義)	千葉県総合救急 災害医療センター 相原竜也
第5回	5/8	災害対応意思決定演習	・「クロスロード」を用いた、災害対応場面における 問題共有と合意形成の演習 ・災害と倫理 【課題レポート】	細谷紀子 佐藤紀子
第6回	5/15	中長期における看護活動・放射線災害への対応	・避難所や仮設・復興住宅における看護 ・心のケアと救援者自身の心身の防衛 ・放射線災害への対応	細谷紀子
第7回	5/22	派遣(応援)看護職の活動の実際	被災地における災害支援ナースの活動の実際 (特別講義)	総合病院国保旭 中央病院 石毛香織
第8回	5/29 45分	平常時における看護活動	・災害対策における行政保健師の役割 ・要配慮者を包摂した地域の支援体制づくり	細谷紀子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習・復習はテキストを用いて事前学習および講義後の学習により理解を定着させること。		
テキスト		ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護、酒井明子他編、メディカ出版		
参考書・参考資料等		ルポ・そのとき看護は ナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会、その他、授業で紹介する		
学生に対する評価		筆記試験(80%)、課題レポート(10%) 学習態度(10%)により総合的に評価する。※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。		